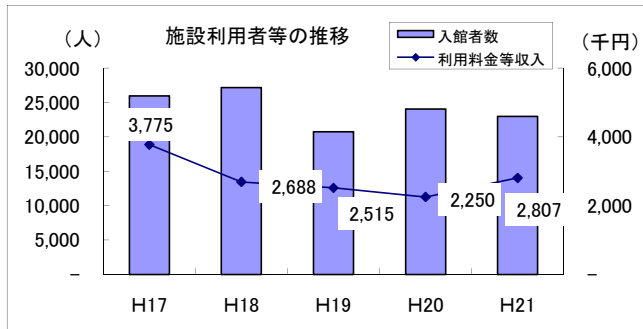


若狭歴史民俗資料館は若狭の魅力の玉手箱!!

| | | | |
|------------------------|--|--------|---|
| 所在地 | 小浜市遠敷2-104 | | |
| 設置年月日 | 昭和57年10月1日 | | |
| 施設の種類 | 博物館 | 施設管理主体 | 県 |
| 設置の目的 | 若狭地方の考古・歴史・民俗などの調査研究・収集・保管および展示等を行い、この地方の豊かな文化遺産の保護および県民の文化の向上に寄与することを目的とする。 | | |
| 概要 (構造、面積、 主な機能) | 鉄筋コンクリート2階建 延床面積 3,218.75㎡ | | |
| 職員数 | 職員6人 非常勤嘱託2人 アルバイト2人 計10人 | | |

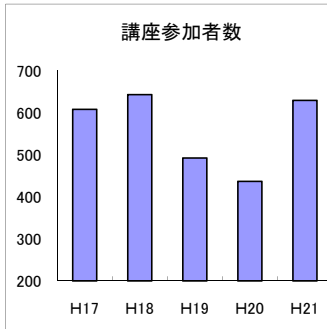
利用状況等

| | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 入館者数(人) | 25,948 | 27,176 | 20,757 | 24,016 | 22,979 |
| 講座等参加者数(人) | 608 | 643 | 492 | 437 | 629 |



利用者負担(利用料金)等

| | | |
|-----|-----|--------|
| 入館料 | 常設展 | 大人100円 |
| | 企画展 | 別に定める |



| | |
|---------|---|
| 利用状況の推移 | <p>平成17年度の入館者数は、恐竜博物館の移動展などの開催により25,948人でした。平成18年度は、文部科学省主催の「発掘された日本列島2006」巡回展と「発掘された若狭・越前」展の2本立てで長期間の企画展開催により、入館者数が27,176人となり、前年度比5%の増加となりました。</p> <p>平成19年度は、有料の利用者数は前年度とあまり変わりませんでした。無料を含めた利用者数は前年度と比較して約23%減少しました。</p> <p>これは、NHKのドラマ「ちりとてちん」等の影響により観光客の足が小浜市街地に向けたことが要因であり、資料館でもそれらに関連した展示や講座が必要だったと考えます。</p> <p>平成20年度は、学校教育活動の受入れや子供向け体験学習に力を入れた結果、24,016人まで回復しました。</p> <p>平成21年度の入館者数は22,979人で前年度比5%の減少となりましたが、企画展や講座は大盛況で、図録販賦収入が増加しました。</p> |
|---------|---|

施設の特徴

展示品 「復元武人像と盾」→

嶺南地方の文化財調査の拠点

嶺南地方の文化財の調査・保護・活用の支援を積極的に行い、地元ならびに遠方からのお客様の様々な質問にもお答えしています。

親しみを持てる資料館をめざして

職員がお客様に直接説明する機会を多く設けています。企画展はもちろん常設展でもお客様の関心に合わせた解説を行っています。他にも小・中学生の総合体験学習の受入れや、体験的な催しを行っています。

いろいろな展示、講座の開催

・企画展

年1回、若狭の文化的内容をテーマとして大規模な展示会を開催します。日頃見る機会の少ない展示品を全国各地から収集して展示します。期間中には、記念講演として展示内容の専門分野の研究者を招いて講座を開催します。

・テーマ展

年に4回程度、テーマを1つ絞ってテーマ展示を開催します。

・郷土史講座

若狭地方の歴史・民俗・美術工芸等に関する内容で、当館職員を中心に講師を務め、講座を実施します。

・体験講座

主として小・中学生を対象とした体験講座を、夏休み・冬休み期間を中心に実施します。

・移動展

県立の3つの博物館から持ち回りで、館蔵品の展示を開催します。



※平成21年度企画展「若狭小浜藩」

平成21年度の特徴について

| | |
|--|--|
| 事業実績 | 企画展 : 「若狭小浜藩」 (10/17~11/15) 3,312人 |
| | テーマ展 : 「仏堂の荘厳-若狭羽賀寺の場合-」 (4/25~5/24) 1,785人 |
| | 「発掘された文字資料」 (6/20~7/12) 1,043人 |
| | 「火に関する資料展-収蔵民俗資料を中心に-」 (1/3~2/21) 2,280人 |
| | 移動展 : 県立美術館「移動美術館 小浜展1-新収蔵品と屏風絵の美-」 (7/19~7/30) 672人 |
| | 県立歴史博物館「夏休み特別企画展 昭和のくらしinWAKASA」 (8/7~8/23) 1,427人 |
| 県立美術館「移動美術館 小浜展2-絵になる女性たち-」 (3/11~3/23) 766人 | |

若狭歴史民俗資料館(2/2)

行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

| | | 総額 | 構成比 | 前年比 |
|----------|-----------|---------|--------|----------|
| 人にかかるコスト | 人件費 | 64,766 | 53.3% | 94.6% |
| | 退職給与引当金繰入 | ▲ 3,257 | -2.7% | -4934.8% |
| | 賞与引当金繰入 | 3,024 | 2.5% | 99.0% |
| | 計 | 64,533 | 53.1% | 90.1% |
| 物にかかるコスト | 物件費 | 32,264 | 26.5% | 107.9% |
| | 維持補修費 | 842 | 0.7% | 37.5% |
| | 減価償却費 | 22,511 | 18.5% | 100.0% |
| | 計 | 55,617 | 45.7% | 101.7% |
| その他 | 支払利息 | 0 | 0.0% | — |
| | その他 | 1,469 | 1.2% | 116.1% |
| | 計 | 1,469 | 1.2% | 116.1% |
| 合計 | | 121,619 | 100.0% | 95.4% |
| 収入 | 利用料等収入 | 1,657 | 1.4% | 108.8% |
| | 一般財源 | 119,962 | 98.6% | 95.2% |

バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

| 借方 | | | 貸方 | | |
|--------|---------|--------|-----------|---------|--------|
| 資産 | | 前年比 | 負債 | | 前年比 |
| 有形固定資産 | 670,849 | 96.8% | 固定負債 | 38,935 | 92.3% |
| うち土地 | 24,893 | 100.0% | うち退職手当引当金 | 38,935 | 92.3% |
| うち建物 | 535,280 | 96.1% | | | |
| うち展示品 | 79,141 | 100.0% | | | |
| 投資等 | 0 | - | 流動負債 | 10,811 | 125.9% |
| 流動資産 | 0 | - | 純資産 | 621,103 | 96.7% |
| 計 | 670,849 | 96.8% | 計 | 670,849 | 96.8% |

主な指標 (単位: %, 円/人)

| | H21 | H20 | 前年比 |
|----------------|------|------|-------|
| 県民1人あたり有形固定資産額 | 829 | 853 | 97.2% |
| 県民1人あたり将来負担額 | 48 | 52 | 92.5% |
| 世代間負担率 | 92.6 | 92.7 | 99.9% |

| | |
|---------------------|---|
| バランスシート、行政コスト計算書の特徴 | <p>行政コストの中で最も高い割合を占めているのは人件費で50.0%となっています。</p> <p>維持補修費について、平成21年度は目立った修繕がありませんでしたが、建物が築25年を経過しており、今後、冷暖房や下水道設備等の修繕の必要性が見込まれます。</p> <p>コストに対する収入の比率は、利用料等収入が1.3%と低くなっていますが、これは、利用者の半数近くが70歳以上や高校生以下等の無料対象者であることが要因と考えられます。</p> <p>なお、将来の負担となる固定負債は退職手当引当金等のみで、県民1人あたりの将来負担額は低い水準になっています。</p> |
| 施設の目的上、管理運営上、主要な事業 | <p>嶺南で唯一の重要文化財承認施設として、嶺南地方の文化財調査保護活動において中心的な役割を果たしています。</p> <p>管理部門：施設の維持管理、資料の保管と管理 【H22予算額：約30百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業 … 歴史・民俗・考古等の調査研究 【H22予算額：約0.1百万円】 企画展開催事業 … 企画展の開催 【H22予算額：約9百万円】</p> |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> 新規入館者の開拓 歴史愛好家などの常連客や観光客の入館が中心となっているため、地域住民に親しまれる資料館づくりを目指します。 施設の改修について 昭和57年に開館されて以来25年が経ち、施設が老朽化しています。 |
| 今後の事業方針 取り組み内容 | <p>当資料館の目的である、嶺南地域を主とした地域の歴史文化を伝えることを中心に事業を進め、県民のニーズ対応した展示等を積極的に実施していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスロビーの活用によるパネル展示 ・学校教育活動の受入れ、支援 ・体験的講座の充実 ・広域的な広報活動 ・ホームページによる情報発信 等 <p>また、県内に留まらず近隣の市町村との関係も絡めた展示・講座内容にすることにより、より広域からの集客を目指します。</p> |

